

誰かが声を 伝わらぬ真意

～信念と党議の狭間で～

◆歩いて、聞いて、感じて

第2次補正予算案の採決棄権は苦しい判断でした。その後、地元の皆様のご意見を伺って歩いています。

自民党支持者の方からは賛否の声が上がりました。地元の自民党議員団の先生方からは「俺たちも議会で苦しい決断をしている」と、厳しいお言葉を頂きました。

そして、公明党の皆さんにも真意を率直にお話して回っています。強い叱責もありましたが、逆に「正直、どうしてかなと思ったけれど、信念からの行動でしょう。ケンタさんの考えは、みんなにもよく伝えておきますよ」と、あたたかいお言葉をかけて下さる方もおり、胸が締め付けられました。

叱責、不信、激励・・・皆様の思いが心に突き刺さる毎日です。

◆造反と報道されて

「造反」と報道されましたが、真意はむしろ逆です。議場を出て最初のインタビューで、私は「渡辺喜美議員が自民党は古くなったとして離党するのなら、逆に私たち若手は自民党を刷新します」と答えました。

だからこそ、経済財政担当の政務官という立場から、民意を取り戻すために一石を投じようと思いを決しました。

◆議論の上で決定を

定額給付金については、政府、自民党内ともに開かれた議論の場がほとんどありませんでした。方針がぶれ、国民の不信を買う様子を担当政務官として目の当たりにする中で、大半の有権者から納得してもらえるように議論し直すべきだと主張してきました。



街頭で演説しながら国政報告を配布する2月2日JR高槻駅南口

例えば、年金・医療・介護の安心基金に1兆1000億円、残りの9000億円を地域格差是正事業としてインフラ整備に回すなどです。政府は社会保障費の伸びから毎年2200億円を削減しており、この基金によって5年間は安心して予算が組めます。

国民の大半が懐疑的である以上、与党から誰か一人でも声を上げるべきだ、と考えました。ゼロではなく一人でも異論があったことを国民の皆様の記憶の片隅に留めることに、意味があると思いました。

◆政治に新たな枠組みを

これからは一議員の立場から、道州制を要として若手の力を結集し、勇気をもって行動します(表の記事参照)。

今の政治はまだ古い55年体制の手法で動いていると感じます。年金、世襲議員、道州制など、新たな争点、枠組みが求められているのではないのでしょうか。

政権交代が話題となっていますが、民主党を見ても、幹部は自民党旧田中派の顔ばかり。新たな風を起こすために、自民も民主も世代交代は喫緊の課題だと感じます。

衆議院議員

松浪健太

夜回り先生こと

水谷修氏

— 特別講演 —

2/15 (日) 11:00~
たかつき京都ホテル

2/20 (金) 18:00~
現代劇場市民会館305

お申込受付：072-685-7188 松浪ケンタ事務所